

○1 番 渡部稜君

行橋小学校6年、渡部稜です。私は、ボランティアの人数について質問します。
今の行橋市にはボランティアの方々がたくさんいると思います。ですが、僕の思う限りでは、ボランティアの数が年々減少し、ゴミが増え、市が少し汚くなっていると思います。
はじめに、現在、行橋市においてボランティアを行っている方々の人数を教えてください。

○前半議長 淵上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

お答えいたします。市内には様々な分野のボランティアの方々がいらっしゃいます。
ゴミ拾いとか以外で申し上げますと、芸能ボランティアや赤ちゃんを預かる託児ボランティアなど、それから子ども食堂などもそうだと思いますが、いろいろなボランティアをされている方々がおられまして、社会福祉協議会というのがあるのですが、そのボランティアセンターという所があります。ここに登録されている団体は、約30団体ほどということで、約800名の市民の方々が様々なボランティアに参加されています。
それから例えば交通の朝の見守りとか、そういった方々もボランティアでやっていますよね。

いろいろな方々がいらっしゃるんですけども、このボランティアセンターに登録していない方々も多数いらっしゃいますので、実際のところの正確な人数というのは、市でも把握ができていないという現状です。以上です。

○前半議長 淵上愛衣君

渡部議員。

○1 番 渡部稜君

ありがとうございました。ボランティアを行っている方々全体の人数は、把握できていないとのことでした。

一方で、行橋市ボランティア団体登録団体では30余りの団体において、約800名の市民の方々が様々なボランティア活動を行っていることが分かりました。

次に、行橋市には清掃活動を行うボランティア団体があるのか、教えてください。

○前半議長 淵上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

まず、ボランティアセンターの登録団体の中には、清掃活動をされている団体さんと

いうのはいらっしゃいません。ただ、市内には自治会、子ども会、老人会といった地域の団体、企業、それから観光協会と議員さんが月に1回ゴミ拾い等をされています。そういったことで年間を通じて様々なかたちで様々な方々が清掃活動をなさっていると思っています。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君
渡部議員。

○1番 渡部稜君

ありがとうございました。行橋市ボランティアセンターへの登録団体としてはないものの、地域の団体、企業や様々なグループの方々がボランティア活動として清掃活動を行っていることが分かりました。

最後に、清掃ボランティアの人数を増やすには、どのようにすればよいと思われるか、考えをお聞かせください。

○前半議長 渕上愛衣君
執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

まず、どこを求めていくべきかという、私も個人的な考えでもあるんですけども、究極を言うと、こういうゴミ拾いをするボランティアの方々がいなくなるということが一番理想的だと思うんです。つまりゴミがない世界をつくるということですよね。ゴミが落ちていることが前提ではなくて、ゴミを落とさないという文化を、もともとも我々の社会の中に築いていかなければならないと思っています。

前の議員さんのご質問にもございました。ゴミ箱をなぜ設置しないのか。ゴミ箱を設置することによって逆にゴミが増える、不法投棄が出るということがありました。だからゴミは持って帰りましょうと。実際にでも、そういった活動だけでも公園に落ちるゴミが減っている事例もあります。草を刈ったりすることによって環境がきれいになってゴミが減っていく、という事例もあります。だからそういったきっかけづくりというのが大切なのかなと思います。

野球の大谷翔平選手が、目の前にゴミがあれば拾ったりするじゃないですか。私も、例えば市役所の前にゴミが落ちていたら拾うようにしているんですね。これはゴミ拾いじゃなくて、運拾いとか宝拾いとか、そういったふうに自分では思っています。

まずは、ここにいる議員さん方がですね、1日1つでも必ず目に付いたゴミを拾うだとか、そういったことを徹底していただくこと、それを今度は個人個人の行いを、これを市全体の動き、文化にしていく、こういった活動が必要なのかなと思います。

いま市内でも6月と10月の第1月曜日に、ごみゼロキャンペーンといったものがご

ざいます。結構実は大人の方々、ゴミ拾いをしているんです。ぜひともそういったところに子ども議員の皆さん方も参加いただければと思います。以上です。

○前半議長 渕上愛衣君

渡部議員。

○1 番 渡部稜君

ありがとうございました。行橋市におけるボランティア活動についての理解を深めることができました。

今後は私自身も清掃ボランティアに参加したり、友人にも清掃ボランティアに参加するように勧めたりすることで、行橋市がきれいで住みやすいまちになるように、できることから始めたいと思います。これで1つ目の質問を終わります。

次の質問です。行橋市内の小学校には、電子黒板やタブレットなど、素晴らしいデジタル機器が整備されていますが、インターネットなどで調べてみると、デジタル教育の格差が生じているということが言われています。私が通っている行橋小学校と、その他の小学校との間にも、このデジタル格差があるのではないかと考えています。

そこで質問ですが、文部科学省の調査によると、全国で電子黒板の整備率は80パーセントとありました。また行橋市でも、電子黒板が揃っていない学校があると聞いたことがあります。行橋市の学校の現状はどのようになっているのでしょうか。

○前半議長 渕上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

渡部議員のご質問にお答えしたいと思います。文科省の調査をされて、しっかりと調べられているのはすごいなと思います。

電子黒板は、現在、市内の学校で行っているICT教育を支える重要な機器になっています。この電子黒板ですが、議員も学校の授業で使っているのでご存知と思いますが、以前は、天井から吊下げた固定式のプロジェクターを使用していました。しかし、光の反射の影響や電球の劣化によって、見えにくい場面があったために、昨年10月に、床に設置して移動させることができる大型ディスプレイに変更しております。その結果、現在は、非常に見やすくなったと思います。

ご質問の電子黒板の整備状況ですが、行橋市では、行橋小学校をはじめ、市内の小・中学校の全ての普通教室と特別支援学級に電子黒板を整備し、日常的に使用できるようにしていますので、ご安心して勉強に取り組んでいただければと思っています。以上であります。

○前半議長 渕上愛衣君

渡部議員。

○1 番 渡部稜君

ありがとうございました。行橋市では、市内の全ての学校に電子黒板が整備されていることが分かり、とても安心しました。

では、環境面では整備されていることが分かりましたが、先生によって I C T 機器をよく使う先生とあまり使わない先生がいるということも聞きます。そこで、先生たちの I C T 機器の活用の状況はどのようになっているのでしょうか。

○前半議長 淵上愛衣君

執行部に答弁を求めます。

教育長。

○教育長 山田英俊君

渡部議員もお聞きになったことがあると思いますが、令和元年から、国が G I G A スクール構想という取り組みを進めております。これを受けて、令和 3 年 4 月からは、行橋市内の小・中学校でも、1 人 1 台端末や I C T 機器を活用した授業を実施しているところです。しかし、端末の操作を含め、I C T 機器を使った授業には、専門的な知識や準備が必要です。操作が苦手な先生の中には、当初、I C T 機器の利用に消極的な先生もおられました。教育委員会では、そのような先生方のために、研修を実施して、先生方の I C T 活用の指導力のアップを図ったり、先生が困ったときにサポートしていただけるスタッフを学校に派遣して、I C T を活用した授業づくりへの支援に取り組んでいるところであります。

また、先生方一人一人が、皆さんのために、しっかりと勉強してくれているおかげで、先生方の I C T 端末を操作する力は、確実に伸びてきていると考えています。今では、ほとんどの先生が、日常的に I C T 機器を活用した授業を行っていただいていると思っています。以上であります。

○前半議長 淵上愛衣君

渡部議員。

○1 番 渡部稜君

ありがとうございました。行橋市における電子黒板の整備率について理解を深めることができました。

これで質問を終わります。ありがとうございました。